

# 優秀経営者に東海メディカル会長

## 「優れた起業家」世界大会

【モナコ＝渡辺泰之】世界の優れた起業家をたたえる「EYワールド・アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー」の表彰式が十一日、モナコであり、日本代表として出場した医療機器メーカー「東海メディカルプロダクツ」（愛知県春日井市）の筒井宣政会長（七〇）に優秀経営者としてトロフィーが贈られた。――「この人」③面

大会は、世界四大会計事務所の一つ「EY」（本部・ロンドン）が主催。各地の予選大会で選ばれた起業家が出場し、ナンバードワンを決める。十六回目となる今回は四十九カ国・地域の代表が出場した。筒井会長は心臓疾患を患っていた次女の治療のために起業。心臓などの手術に欠かせない医療器具のバルーンカテーテルを開発する



11日、モナコで、妻・陽子さんと表彰を受ける筒井宣政さん（右）＝渡辺泰之撮影

など医療分野での多大な功績が認められ、日本代表に選ばれた。世界大会では面談などの審査が行われ、筒井会長は優勝は逃したが、各国大会を勝ち上がった優秀者としてトロフィーを手にした。最優秀者にはオーストラリア代表が選ばれた。筒井会長は「ここまでこられたのは娘のおかげ。今後も世の中に貢献していきたい」と語った。

### 心臓手術用カテーテル開発 「優れた起業家」日本代表

筒井 宣政さん(74)



モナコで開かれた、優れた起業家が集う世界大会に日本代表として出場した。手術用のバルーンカテーテルなどを製造する「東海メディカルプロダクツ」（愛知県春日井市）の創業者だ。起業の原点は心臓に先天的な疾患を抱えた次女佳美さんの存在だった。手術の可能性を探ったが、「難しく、成功しても完治の見込みは薄い」と宣告された。悩んだ末に治療費としてためていた三千

### この人

万円余を投じ、人工心臓の開発を決意。「娘を救いたい」一心から一九八一年に起業した。医療は全くの門外漢。専門書を読み、学会に足を運び研究に没頭。人工心臓は開発費の問題から断念したが、その後、輸入品しかなかった心臓手術用の「IABPバルーンカテーテル」の開発に成功した。海外の学会で発表すると、その完成度が絶賛された。成功を見届けるように佳美さんは九一年に二十三歳で永眠。「私の病気をきっかけに人の命を救うものを作ってくれてすごうれい」。生前、ほほ笑んだ娘の顔が今も頭を離れない。「安全で良い製品を作り一人でも多くの命を救いたい。それを娘が教えてくれたんです」（渡辺泰之）